

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みずなしの丘
(ユニット名)	せせらぎ
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市赤岩水梨子97-55
記入者名 (管理者)	伊藤 久美子
記入日	平成 20 年 7 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念のもと、地域密着型サービスとしてのGH独自の理念を作り、誰でも分かりやすく見やすい場所に掲示している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の支援の中で機会ある度に理念を交えながら介護の仕方を話し、職員も日々理念の唱和を行い、尊厳について認識し対応している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関への提示やホーム便り、運営推進会議での議題として上げたりして、ホームの理念を広く理解してもらえよう努力している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>出かける際には挨拶を交わしたりして、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるようなホーム作りを心掛けている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域交流を心掛け、保育所との交流会や小学校の運動会、お田植え祭などの地域のイベントなどに積極的に参加しており、例年の行事となっている。地域の方と一緒に楽しむことでお互いを理解し合い、地域連携を図っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の勉強会の講師を引き受けたり、相談があれば対応している。ホームの機能を地域に還元できるようにしている。		今後も要望があれば協力して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の勉強会を行ったり、自己評価については分担して全員で取り組んでおり、外部評価の結果は職員会議で報告し、回覧して周知徹底するようにしている。改善項目についてもすぐに検討して対応するようにしている。また、必ず家族や市町村へ報告し、開示している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告から始まりさまざまな議題についての意見や、外部評価についての勉強会を行ったりしている。評価結果については必ず報告し意見をいただいたりして、次の評価へつなげるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	気軽に相談できる関係作りなど市との連携を強化するため、運営推進会議のメンバーになっていただいたりと、報告やいろいろな助言をいただきながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		勉強会などへの参加助言など、今後も連携を図って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料を配布したりして、学びの機会作りをしている。必要な人には活用できるよう支援して行きたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳については十分認識している。虐待については行うことがないよう職員間でも理解し、浸透している。今後も継続して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては十分時間をとり、退居を含めた事業所としての対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。また家族からの要望、質問にも十分答えるようにして契約を交わしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所へも気軽に相談しに行けるようになっている。職員もいつも気を配っており、職員会議や連絡帳などを活用している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの様子や健康状態などは個別に面会時や郵送にて連絡するようにしており、金銭管理については毎月郵送にて必ずお小遣い連絡票を送付し残金を連絡している。職員の移動も個々に合わせた報告をその都度している。又年に数回ホーム便りを発行している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時や折に触れ、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。苦情担当職員や第三者委員、公的苦情相談機関を重要事項説明書に明記しており、ホーム便りなどにも載せたりして掲示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時やその時々状況に合わせて意見交換を行い、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	それぞれのユニットごとに、利用者様の状態やペースに合わせたローテーションを組んでおり、その都度必要に応じて話し合い、柔軟な職員配置、調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	それぞれのユニットではある程度固定の馴染みの職員が対応するようにしており、利用者様、ご家族との信頼関係を築きながら介護支援している。代わる場合は、移動や離職時のダメージを最小限になるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職務に応じた研修を段階的に計画し行っており、研修を受ける機会を多く持ち資格取得に向けた働きかけなど、育てる取り組みを行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修には常勤・非常勤の別なく参加させている。GH協会の交換研修や交流研修を受けさせたり、市内の連絡協議会の会議や研修に参加させたりして、職員の質の向上やサービスの向上に励んでいる。同業者と交わることでいろいろな情報交換の場を得、気づきや介護に生かしてほしいと思っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>働きやすい職場作りや環境を整えたり、職員同士の人間関係やストレスが溜まらないような工夫を心掛けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も毎日出勤しており、職員の業務を把握している。労働環境作りにも配慮し、長く働き続けることが出来るよう支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス利用の相談があった時は、必ず本人へ会い本人の想いや状態等を確認するようにしている。入居してからの生活暦の把握からも初期段階からの信頼関係を築くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に見えた方には、十分に話を聞きながら在宅での生活のアドバイスをしたり、ホームの様子を説明したりして、認知症に対する不安が少しでも解消するように支援している。病状や段階、生活について分かりやすく説明するようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームを説明しながらあらゆる選択肢を探せるよう助言している。他のサービスについても連絡を取り合いながら利用で出来るようにしている。相談者の立場に立った対応を心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得して入居していただきたいと思っているので、本人、ご家族、関係者のどなたかには必ずホームの様子を見に来ていただき入所につなげている。ご家族の意向を聞きながら入所日についても本人へ面接した職員が対応出来るようにしたりと、安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常にご本人を尊重する気持ちで一方向的に支援することのないよう気をつけている。生活の中で知らなかったことを教えていただく事があったりと共に生活を支え合う関係でいたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段からご家族との良好な関係作りを行い、気軽に話しが出来たり、ご家族の想いを聞くことが出来るようにしている。場合によってはご家族も含めた支援が必要なケースもあり、状況を見ながら良い支援が出来るよう協力や理解をいただき、一緒にご本人を支え合っていく関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の思い・ご家族の思いが双方に出来るだけ伝わるように連絡・調整・支え合いを行っている。お互いの思いが理解し合えるように協力、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の方々にお茶を飲みながら談話をさせていただいたり、思い出の海や山、神社などに出かけたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	協同生活であり集団生活であることを仕事やそれぞれの役割をとおして知り、お互いに支え合える関係性作りをしている。誰かが馴染めなかつたり孤独感を味わうことのない様配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な時があればいつでも相談してほしい旨話しており、相談があった時は対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や支援を通して、希望、意向を聞いたり気づいたりするようにしている。普段から会話を多く持つようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の時やご家族の面会時などにいろいろお話を聞かせていただき、情報収集に努めている。今までの生活を知ることによってケアに活かせることが多いので意味と重要性をご家族に伝えご協力いただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録の状況を十分に把握しながら情報の共有に努め、それぞれに合った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の要望を察しながら職員全員がアセスメントシートを勉強しあい、情報収集、活用してケアプラン作りに参加している。ご家族にもプランの要望を伺い作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しは3ヶ月に1回、変化があった時は随時見直すようにしているが、担当者の変更があり連絡同意が遅れている。	○	担当者も決まったので順次対応して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて食事量、排泄、バイタル、日々の生活の様子や気づいたこと、連絡事項を記録している。また、連絡帳にて職員全員で情報の共有化を徹底しており、見たら必ずサインをするようにしている。申し送りでも報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて通院介助や送迎、病院からの薬もらい、外出支援など臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中で暮らし続けて行ける様に警察や消防、学校、民生委員さん、ボランティア団体さんの協力のもと暮らしている。資源を知り、上手に活用しながら協働して行きたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用したりしている。活用できることがあれば積極的に行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーにもなっているため、支援に関する情報提供やアドバイスを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診している。また病状に合わせた医療機関を知らせたり、受診時にはホームでの様子を記録にて情報提供している。必要な場合は職員が同行受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。お名前の呼び方に対してもご本人が一番わかる呼び方をしており、ご家族からもご理解いただいている。個人情報を扱う上からも十分配慮した支援を心がけ、言葉づかいに気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様に合わせて声掛けしたり本人の表情などで判断し、職員任せの決定にならないように気を付けている。選ぶ楽しさ、自分で決める満足感を支えるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑いとお楽しみのある生活を、ゆったりとした中で過ごしていただきたいと思って支援している。介護者の都合ではなく、あくまで利用者様のペースに合わせて希望に沿った支援を心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の希望に沿った支援に努めている。以前からの馴染みの店で理容・美容されたりいつも買う店で洋服を購入したりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来ることに合わせて協力しながら一緒に行っている。ホームの畑で育てた野菜と一緒に収穫したり、調理して楽しんだりしている。片付けも皆で分担して協力している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好を把握しながら個々に合わせた対応をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、夜間にも出来るだけトイレ誘導やポータブルトイレを使用するようにしている。排泄回数や便意の確認をしており安易なオムツ使用はしていない。使用する際はご家族に説明し、状況が改善されればパンツにもどすようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行える。一人ひとりの希望に合わせた入浴支援や、回数や時間帯など体調を見ながら支援したり、状態に合わせた介助を行っている。仲のよい方と一緒に入浴している方もいらっしゃる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れようとし、夜の安眠につなげるようにしている。一人ひとりの睡眠状況や、混乱時の対応など睡眠が確保されるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫であったり畑仕事であったり自分の好きなことをいつまでも続けられるよう支援している。好きなことをすることで精神的に安定したりすることも多く、ご本人のやりがい生きがいになるよう見守っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と同意の上で個人でお金を持っている方もいる。一概に事務所で管理するのではなく一人ひとりの力に応じた、必ず意向を伺って対応するようにしている。妄想につながることも多いので慎重に対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや各種の行事イベントへの参加や、外食も楽しみのひとつになっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや帰宅など簡単な支援については対応している。今後とも検討しながら支援して行きたい。	○	旅行などご家族やボランティアの方の協力をいただいて対応できる範囲で行ってみたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時節の便りの他、ご家族、なじみのある方から届いた便りの返事も職員が近況報告も添えて出すように支援している。電話も本人の意向があればご家族と連絡を取り合っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者がいらした時はいつでも笑顔で受け入れ、状況に応じて自室、ホール、小上がりなど居心地の良い場所で心行くまで面会していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり行っていない。職員が身体拘束しないケアの大切さを認識しており、実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝の忙しい時間帯に外へ出て行かれる方がおり、職員の見守り、気配りの工夫が必要になっている。ユニット間の連携を十分図りながら安全面に気をつけた支援を今後も行っていく。	○	徘徊が激しい方のケアの仕方を今後も勉強して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様と出来るだけ同じ空間を共有し、職員が場を離れるなどする時は声を掛け合い、所在や様子を把握し支援している。夜間についても十分に配慮して支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や入浴剤、掃除用洗剤などは保管庫にて管理し、包丁は利用に応じて鍵付き調理台で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から常に危険を予測し、未然に事故を防止出来るよう日々の介護に当たっている。職員間の気づきや連携、申し送りなどを徹底し、ヒラリハットの活用や事故が起きた場合は事故報告の中で二度と起きないように皆で防止に向けた話し合いを行い今後の支援に取り組むようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習に参加し、急変時に冷静的確な対応が出来るようにしている。緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。マニュアルについては職員が十分内容を把握するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の方々にも参加や協力していただき、総合避難訓練は年2回(内1回は夜間想定訓練)ミニ避難訓練(地震も含む)は年4~6回行っている。訓練を通して有事の際の避難誘導に備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては状況の変化の都度、分かりやすく説明するようにし同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタルチェックを行ったり、顔色、食事量、排泄のチェックなどを行い、様子の変化に十分気をつけている。変化があった場合には職員全体で情報共有し、早めの対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方箋を見やすくファイリングし、職員は内容を把握するようにしている。服薬の際は飲み込みまで確認し、職員間で症状の変化を見逃さないように話し合いをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食後の排便を促したり、お腹のマッサージ、体操などを行っている。安に下剤に頼るのではなく、日中の活動を多く取り入れたり、食物繊維や乳製品を多く取り入れたりして自然排便を図るようにしている。	○	コントロールが必要な方にはそれぞれの排便サイクルを把握して、主治医と相談しながら使用量のアドバイスを受けるようにしたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、声掛け、見守り支援している。義歯の方は夜間外して洗浄している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がおりバランスの取れた季節感のある献立を立てている。状態に合わせて臨機応変に献立を変えたり助言を行っている。職員は食事量を記録し情報の共有をしている。喜ばれほとんど残食がない献立作りをしている。		
78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを整備し、感染症の予防に努めている。外出時には手洗いがいと食前には必ず手洗いの支援をしている。また職員と共に全員の方がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所の清潔衛生に気をつけ、まな板や布巾の漂白、冷蔵庫の点検、掃除、食材のチェック管理などを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰にも親しみやすく、気軽に入れる玄関周りにしている。ホーム入り口からの植栽、プランターや中庭の花壇、散歩が楽しめる遊歩道にはベンチなどを整備している。季節ごとの花を植え季節感を出してたり、入居者様手作りのパッチワークを飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な生活が出来るように、馴染みの家具や季節感を感じられるような空間作りを心掛けている。活動を活かした入居者様手作りの作品があったり又、すだれなどを使い光調節をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ちょっとした小上がりがあり、腰掛けておしゃべりしたり、昼寝をしたり自由にくつろげる場所になっている。冬にはこたつを置いてかるたなどを楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具、タンス、テーブルなどを持ち込んでいただいている。支援の少ない方についてはホームに寄付していただいた物を活用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度や喚起については十分に気をつけて対応している。熱さ寒さなど個人的にも差があるので個別に配慮して対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて廊下やトイレ、浴室、脱衣所の手摺りなどの見直しやスロープの設置など、生活環境の安全と配慮に心掛けている。定期的に点検などを行い環境作りに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「わかること・わからないこと」「できること・できないこと」など個人個人の状態を把握し混乱や失敗を防ぎながら自立した生活が出来るよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム周りの自然環境を活かしながら庭に花を植えたり、畑を作ったり、遊歩道を散歩したりして楽しみのあるホーム作りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

みずなしの丘は市街地から少し離れた、山間の高台にあります。ホームからの眺めが良く気仙沼湾に浮かぶ大島を見るには最高のロケーションです。自然豊かな環境を活かし、おいしい空気と畑や山間ならではの暮らしを楽しんで頂きたいと思っています。山間部での環境がマイナスにならないよう地域連携に努め地域の方々との触れ合いを重視し、地域に孤立することなくホームの持っているものを地域に還元出来る様に暮らして行きたいと思っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みずなしの丘
(ユニット名)	ひだまり
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市赤岩水梨子97-55
記入者名 (管理者)	伊藤 久美子
記入日	平成 20 年 7 月 2 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人の理念のもと地域密着型サービスとしてのGH独自の理念を作り、誰でも分かりやすく見やすい場所に掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念に対しての勉強会などを行い、日々理念の浸透、介護の心構えなどに役立て取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関への提示やホーム便り、運営推進会議での議題として取り上げたりして、ホームの理念を広く理解してもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	職員の通勤時や、出かける際には挨拶を交わしたりして、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるようなホーム作りを心掛けている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域交流を心掛け、保育所との交流会や小学校の運動会、お田植え祭などの地域のイベントなどに積極的に参加しており、例年の行事となっている。地域の方と一緒に楽しむことでお互いを理解し合い、地域連携を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の勉強会の講師を引き受けたり、相談があればいつでも対応している。ホームの機能を地域に還元できるようにしている。		今後も要望があれば協力して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の勉強会を行ったり、自己評価については分担して全員で取り組んでいる。外部評価の結果は職員会議で報告し、回覧して周知徹底するようにしている。改善項目についてもすぐに検討して対応するようにしている。また、必ず家族や市町村へ報告し、開示している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価についての勉強会を行ったり、評価結果については必ず報告し意見をいただいたりして、次の評価へつなげるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	気軽に相談できる関係作りなど市との連携を強化するため、運営推進会議のメンバーになっていただいたりと、報告やいろいろな助言をいただきながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も協力を得ながら連携に努めて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料を配布したりして、学びの機会作りをしている。必要な人には活用できるよう支援して行きたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳については十分認識している。虐待については行うことがないよう職員間でも理解し、浸透している。今後も継続して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては十分時間をとり、退居を含めた事業所としての対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。また家族からの要望、質問にも十分答えるようにして契約を交わしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や態度からその思いを察するようにしている。意見などがあるときは、必ず納得していただけるよう説明している。職員会議や連絡帳などで、意見の報告をしたりしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの様子や健康状態などは個別に面会時や郵送にて連絡すようにしており、金銭管理については毎月郵送にて必ずお小遣い連絡票を送付し残金を連絡している。職員の移動も個々に合わせた報告をその都度している。年数回ホーム便りを発行している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時や折に触れ、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。苦情担当職員や第三者委員、公的苦情相談機関を重要事項説明書に明記しており、ホーム便りなどにも載せて掲示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員の意見や要望を聞くようにしており、また、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。職員会議や日々の介護現場の中でも聞くようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	それぞれのユニットごとに、利用者様の状態やペースに合わせたローテーションを組んでおり、その都度必要に応じて話し合い、柔軟な職員配置を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	それぞれのユニットではある程度固定の馴染みの職員が対応するようにしており、利用者様、ご家族との信頼関係を築きながら介護支援している。代わる場合は、移動や離職時のダメージを最小限になるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務に応じた研修を段階的に計画し行っており、研修を受ける機会を多く持ち資格取得に向けた働きかけなど、育てる取り組みを行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修には常勤・非常勤の別なく参加させている。GH協会の交換研修や交流研修を受けさせたり、市内の連絡協議会の会議や研修に参加させたりして、職員の質の向上やサービスの向上に励んでいる。同業者と交わることでいろいろな情報交換の場を得、気づきや介護に生かしてほしいと思っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい職場作りや環境を整えたり、職員同士の人間関係やストレスが溜まらないような工夫を心掛けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日出勤しており、職員の業務を把握している。労働環境作りにも配慮し、長く働き続けることが出来るよう支援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は、必ず本人へ会い本人の想いや状態等を確認するようにしている。入居してからの生活暦の把握からも初期段階からの信頼関係を築くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えた方には、十分に話を聞きながら在宅での生活のアドバイスをしたり、ホームの様子を説明したりして、認知症に対する不安が少しでも解消するように支援している。病状や段階、生活について分かりやすく説明するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームを説明しながらあらゆる選択肢を探せるよう助言している。他のサービスについても連絡を取り合いながら利用で出来るようにしている。相談者の立場に立った対応を心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得して入居していただきたいと思っているので、本人、ご家族、関係者のどなたかには必ずホームの様子を見に来ていただき入所につなげている。ご家族の意向を聞きながら入所日についても本人へ面接した職員が対応出来るようにしたりと、安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常にご本人を尊重する気持ちで一方向的に支援することのないよう気をつけている。生活の中で知らなかったことを教えていただく事も多く共に生活を支え合う関係でいたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段からご家族との良好な関係作りを行い、気軽に話しが出来たり、ご家族の想いを聞くことが出来るようにしている。場合によってはご家族も含めた支援が必要なケースもあり、状況を見ながら良い支援が出来るよう協力や理解をいただき、一緒にご本人を支え合っていく関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の思い・ご家族の思いが双方に出来るだけ伝わるように連絡・調整・支え合いを行っている。お互いの思いが理解し合えるように協力、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの美容院やお店を利用しており、気軽に友人や知人の訪問を受け入れており、今までの関係が途切れることなく、また住み替えによるのダメージのないよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	協同生活であり集団生活であることを仕事やそれぞれの役割を通して知り、お互いに支え合える関係作りをしている。誰かが馴染めなかったり孤独感を味わうことのない様配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な時があればいつでも相談してほしい旨話しており、相談があった時は対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や支援を通して思いや希望などを察したり気づいたりするように努めている。困難な場合はご家族に聞いたり、ご本人だったらどうだろうと言う立場になって考えるようにしている。		意志表示が難しい方の希望や意向の把握が難しい事が多いので、うまくコミュニケーションを取る様に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の時やご家族の面会時などにいろいろお話を聞かせていただき、情報収集に努めている。今までの生活を知ることによってケアに活かせることが多いので意味と重要性をご家族に伝えご協力いただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録の状況を十分に把握しながら情報の共有に努め、それぞれに合った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の要望を察しながら職員全員がアセスメントシートを勉強し合い、情報収集、活用してケアプラン作りに参加している。ご家族にもプランの要望を伺い作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しは3ヶ月に1回、変化があった時は随時見直すようにしている。ご家族にも見直しの連絡を入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて日々の生活の様子や気づき、また食事量、排泄、バイタルなどを記録しており、連絡事項についても連絡ノートにて申し送りを行っている。連絡ノートについては職員全員の情報の共有に努め必ずサインをするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて通院介助や送迎、外出支援などを行っている。臨機応変に対応できるよう調整しながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中で暮らし続けて行ける様に警察や消防、学校、民生委員さん、ボランティア団体さんの協力のもと暮らしている。資源を知り、上手に活用しながら支援して行きたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホームでの入浴が困難になった方に、他事業所の特浴を利用させてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーにもなっているため、支援や質の向上に関する情報提供やアドバイスを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診している。また病状に合わせた医療機関を知らせたり、受診時にはホームでの様子を記録にて情報提供している。必要な場合は職員が同行受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。お名前の呼び方に対してもご本人が一番わかる呼び方をしており、ご家族からもご理解いただいている。個人情報を扱う上からも十分配慮した支援を心がけ、言葉づかいに気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の会話の中や支援を通して利用者様の思いや希望を聞いたり、気づくようにしている。意思表示が困難な方もいるが出来るだけくみ取りたいと思っている。自分で決めたり選ぶことが出来る方にはご本の意志を尊重している。	○ コミュニケーション技術を向上させたり、利用者様の思いや希望の把握に今後も努めて行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑いとお楽しみのある生活を、ゆったりとした中で過ごしていただきたいと思って支援している。介護者の都合ではなくあくまで利用者様のペースに合わせ希望に沿った支援を心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の希望に沿った支援に努めている。以前からの馴染みの店で理容・美容されたりいつも買う店で洋服を購入したりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみにつながるよう、協同で行うことで役割やご本人の力を発揮していただいている。ホームでは野菜を育てることから行っており、収穫の喜びや一緒に食する喜びを支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好を把握しながら個々に合わせた対応をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、夜間にも出来るだけトイレ誘導やポータブルトイレを使用するようにしている。排泄回数や便意の確認をしており安易なオムツ使用はしていない。使用する際はご家族に説明し、状況が改善されればパンツにもどすようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行える。一人ひとりの希望に合わせた入浴支援や、回数や時間帯など体調を見ながら支援したり、状態に合わせた介助を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れようとし、夜の安眠につなげるようにしている。一人ひとりの睡眠状況や、混乱時の対応など睡眠が確保されるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫であったり畑仕事であったり、自分の好きなことをいつまでも続けられるよう支援している。好きなことをすることで精神的に安定したりすることも多く、ご本人のやりがい生きがいになるよう見守っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と同意の上で個人でお金を持っている方もいる。一概に事務所で管理するのではなく一人ひとりの力に応じて又、必ず意向を伺って対応するようにしている。妄想につながることも多いので慎重に対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど寝たきりの方も多いユニットだが歩ける方については散歩やドライブを行っている。全員で出かけることは難しくなっているが状況を見ながら対応している。	○	重度の方が多いユニットだが状態に合わせて職員を分けるなどして、今後できるだけ戸外活動を取り入れて行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや帰宅など簡単な支援については対応している。今後とも検討しながら支援して行きたい。	○	旅行などご家族やボランティアの方の協力をいただいて対応できる範囲で行ってみたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたりはがきを書いたり、お互いがやり取りできるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、外出などいつでも気軽に来ていただけ、居心地良く過ごしていただけるような雰囲気作りに配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり行っていない。職員が身体拘束しないケアの大切さを認識しており、実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外はかけないようにしている。事務所を通し他ユニットとつながっているので協力しながら行っている。		安全面に配慮したケアに努めて行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者様と同じ空間で過ごし、全員の状況を把握して支援している。夜間はユニットに一人ずつ夜勤者を配置しており、昼夜共に安心出来る支援に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や入浴剤、掃除用洗剤などは保管庫にて管理し、包丁は利用に応じて鍵付き調理台で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から常に危険を予測し、未然に事故を防止出来るよう日々の介護に当たっている。職員間の気づきや連携、申し送りなどを徹底し、ヒヤリハットの活用や事故が起きた場合は、事故報告の中で二度と起きないように皆で防止に向けた話し合いを行い、今後の支援に取り組むようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に対応出来るように救急救命講習を受講したりしている。緊急対応マニュアルや緊急連絡網を整備しており、継続的に講習を受けるなどして緊急時の対応に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の方々にも参加や協力していただき、総合避難訓練は年2回(内1回は夜間想定訓練)ミニ避難訓練(地震も含む)は年4~6回行っている。訓練を通して有事の際の避難誘導に備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては状態の変化の都度、分かりやすく説明するようにし同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化、気持ちの変化など小さい事でも話し合い、職員全員が把握出来るように申し送りノートを利用している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬の処方箋をファイルにて管理し内容を把握している。服薬の在庫や病院への連絡も分担して行っている。与薬も各人に合わせ確実な与薬をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、朝食後トイレ誘導を行い排便の大切さを知らせ、近頃では自分から排便があったことを報告に来る方もいらっしゃるようになった。レク体操の際も説明しながら出来るだけ薬に頼らない働きかけをしている。	○	不穏の原因が便秘でないよう今後も支援して行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず状態に合わせた歯磨き支援を行っている。皆さんと一緒に磨くことで歯磨きの習慣が戻った方もいらっしゃる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作成をしている。栄養バランスと旬の食材を豊富に取り入れ、残食少なく一人ひとりの状態を見て刻み、とろみ、パン食等好みに合わせた食事に努めている。水分補給は常にチェックし行事食も取り入れている。		
78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを整備し、感染症の予防に努めている。外出時には手洗いがいと食前には必ず手洗いの支援をしている。また職員と共に全員の方がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所の清潔衛生に気をつけ、まな板や布巾の漂白、冷蔵庫の点検、掃除、食材のチェック管理などを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰にも親しみやすく、気軽に入れる玄関周りにしている。ホーム入り口からの植栽、プランターや中庭の花壇作り、散歩が楽しめる遊歩道にはベンチなどを整備している。季節ごとの花を植え季節感を出したり、入居者様手作りの刺し子を飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な生活が出来るように、馴染みの家具や季節感を感じられるような空間作りを心掛けている。活動を活かした入居者様手作りの作品があったり又、すだれなどを使い光調節をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりを活用したりして、限られた空間の中で居心地のいい居場所作りを今後も配慮して行きたい。	○	椅子だけでなくソファなども用意したりしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具、タンス、テーブルなどを持ち込んでおり入居後も会話の中で出た時などご家族に相談したり、居室で談話しながら配置も出来るだけご本人の考えを取り入れている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に温度に気をつけ調節している。出来るだけ自然風を利用し、臭いがこもらないように換気や消臭剤なども使用したりして気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて廊下やトイレ、浴室、脱衣所の手摺りなどの見直しやスロープの設置など、生活環境の安全と配慮に心掛けている。定期的に点検などを行い環境作りに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「わかること・わからないこと」「できること・できないこと」など個人個人の状態を把握し混乱や失敗を防ぎながら自立した生活出来るよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム周りの自然環境を活かしながら、畑を作ったり遊歩道を散歩したり草花摘みなどや所々にベンチを設置し、歌や体操などを行っている。		これからも出来るだけ回数を増やして行きたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

みずなしの丘は市街地から少し離れた、山間の高台にあります。ホームからの眺めが良く気仙沼湾に浮かぶ大島を見るには最高のロケーションです。自然豊かな環境を活かし、おいしい空気と畑や山間ならではの暮らしを楽しんで頂きたいと思っています。山間部での環境がマイナスにならないよう地域連携に努め地域の方々との触れ合いを重視し、地域に孤立することなくホームの持っているものを地域に還元出来る様に暮らして行きたいと思っています。